

磯城郡議員団だより

芝和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415
吉田容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446
森良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

福島第1汚染水 120トン漏出

「収束宣言」後最悪
重大トラブルやまず

東京電力福島第1原発（福島県大熊町、双葉町）構内に設置している地下貯水槽から放射能汚染水漏れがあり、東電は6日、漏れた量は約120トンとみられると発表しました。含まれていた放射能物質の総量は約7100億ベクレルと推定され、2011年末の「事故収束」宣言が実態から遠いものであることが改めて示されました。

東電の発表 2日遅れ

地下貯水槽は、同原発の原子炉建屋、タービン建屋の地下にたまっていく高濃度放射能汚染水をセシウム除去装置で処理した後の汚染水を貯留しているもので、同原発構内に7カ所設置されています。

放射能汚染水が漏れたのはこのうち最も大きい2号貯水槽で、地面に縦60メートル、横53メートルで、深さ約6メートルの穴を掘り、約1万3000トンがためられていました。内側にシートを三重に敷いて、水が漏れないようにしていたといえます。

今月3日に、一番外側のシート（ベントナイトシート）と地盤の間にたまっていく水に1立方センチメートル当たり10ベクレル程度の放射能物質を検出。5日に一番外側のシートとその内側のシートの間にたまっていく水から同約6000ベクレルの放射能物質を検出し、汚染水が貯水槽から漏れ出ていると判

断したとしています。漏えいを監視する手法にも問題があったといえます。東電が今回の汚染水漏れを公表したのは5日深夜で、発見から2日後でした。

事故前の福島第1原発では、液体の放射性廃棄物の年間排出量上限が2200億ベクレルと定められており、総量の7100億ベクレルはその3倍以上に相当します。

東電の尾野昌之原子力・立地本部長代理は、「冷温停止状態達成後に流出した放射能量としては最大になる可能性がある」と述べました。漏えいがあった貯水槽は海岸から約800メートル。東電は漏れた汚染水は土に染み込んでいますが、海への放出については「評価が難しい」といいます。

現在、この貯水槽にためていた水をほかの2カ所の貯水槽に移送しており、3日以上かかる見通しだといっています。

福島第1原発では、3月にも仮設の配電盤にネズミが侵入し、使用済み燃料プールの冷却ができなくなる大規模な停電事故があったばかりです。5日も、3号機の使用済み燃料プールの冷却が3時間停止するなど、事故が相次いでいます。

また、東電は同日、問題の貯水槽の海側にある別の3号地下貯水槽で、遮水シート外側の地下水の放射能濃度が前回の検査から約2倍になったと発表しました。漏出が判明した貯水槽から汚染水が流れできた可能性があり、東電が原因を調べています。

2013年4月7日(日)

“公助削れ”というけれど
税金漬の“維新”
収入の94%
政党助成金見込む

日本維新の会が2013年の同党予算で収入の94%を政党助成金(税金)に依存する見込みであることがわかりました。昨年結党した日本維新の会は13年度から政党助成金の交付を受けます。3月30日の党大会で示された予算書では収入の部に政党交付金が27億2千万円計上されています。収入総額は28億8920万円で、政党交付金収入は党収入の94.14%を占めます。収入見込みの不確定な「その他の収入」1億2000万円がゼロの場合政党交付金の割合は98.22%にも達します。

最新の数字である11年度の主要政党の政党助成金依存度をみると、民主党83.2%、自民党72.5%、みんなの党96.8%。日本維新の会は連携を強めるみんなの党とともに断然トップです。政党的自助努力が問われる党費収入の

東日本地震・12号台風への 救援募金にご協力を

【郵便振替口座】

00170017198422

名義は、日本共産党中央委員会です。送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、「地震救援募金」である事の明記を。 磯城郡日本共産党議員団

計上額はたった1500万円。党費は年額3000円ですから党員登録は5000人とどまるという見込みです。

党大会で決めた綱領は「政府の過剰な関与を見直し、自助、共助、公助の範囲と役割を明確にする」「公助がもたらす既得権を排除し」などを掲げます。「自立」を強調する一方で、個人や弱い立場の人へ向ける公助を切り捨てる基本姿勢を示しています。

自らは政党助成金という「公助」に丸ごと浸りながら、国民向けの生活保護など福祉施策の「公助」を敵視する日本維新の会の立場は国民には理解されにくいものです。

2013年4月5日(金)

無条件返還が解決の道
嘉手納基地以南、
志位委員長が会見

日本共産党の志位和夫委員長は4日の記者会見で、沖縄・米軍嘉手納(かてな)基地以南の米軍基地の返還問題について見解を問われ、「無条件で、丸ごと返還するというのが当然のやり方です」と述べました。

このなかで志位氏は返還をめぐる二つの問題を指摘しました。

一つは、辺野古(へのこ)「移設」と嘉手納以南の返還をリンクさせるやり方です。志位氏は「辺野古『移設』を進める代わりに嘉手納以南を返還するというやり方で、(米軍の)新基地を押し付けるのは絶対に許されません」と強調しました。もう一つは、嘉手納以南の基地返還の多くに「県内移設条件」を付けていることです。

志位氏は1970年代に決まった那覇軍港の返還が、「浦添市に軍港を移す」という県内移設の条件を付けたために約40年たっても返還されていない実態に言及しました。「こつしたやり方では解決しないのは明らかになっていきます。嘉手納以南の基地は無条件で、丸ごと返還し、そして普天間(ふてんま)基地も無条件で返還する立場にたたなければこの問題は解決しません」と語りました。

2013年4月5日(金)

真実を認める勇氣

この前の週末は、列島をすっぱり包んでしまう程の大きな低気圧により、各地とも大荒れの天気に見舞われまして、満開の桜も一気に吹き飛ばされてしまいましたね。ぱつと咲いてパツと散るのが特徴の花ですから、これはこれで良しなんですよ。

先日、韓国旅行に行つた知人からお土産を買つたんですが、なんでも買いた物だけに行くツアーなんかもあるらしいですね。彼によると、ソウルへ行くのは飛行機で東京へ行くのと同じような物との事なんで、足蹴く訪れている人ならば、買い物ツアーも有りかと話を聞いて感じた次第です。

行き来は相当旺盛に双方向で展開しているようですから、政府間でも両国の有効発展を進めるべく、事に当たるのが大事だと思いますが、歴代の日本政府は、どうも、先の大戦までの我が国が執つて来た態度について、加害責任を明らかにしていませんから、これが暗礁となつて、互いの友好発展には隔たりが生じているようです。解決は、我が国の側がその責任の所在を認めるのみでして、事の真相を認める勇氣が我々には必要ですが、備わるのにどれだけの時間を要するんでしょうね。

川西町議会

議員

芝 和也



土地開発基金廃止

先の三月議会で、「経済情勢の変化により当該基金設置の必要性が希薄となつたことから・・・(土地開発基金を廃止し)

財政調整基金に積み立て適切に運用してまいりませ」と提案され土地開発基金二億八千三百万円が廃止されました。

そもそも土地開発基金は、「公用若しくは公共用に供する土地・・・をあらかじめ取得する」ために基金を設けたものです。ところが、平成二十五年度予算には、土地開発公社が唐古・鍵公園の駐車場用地購入費用として二億五千九百万円を計上しています。土地開発基金を取崩して駐車場用地

を購入すると金利を払わずに購入できるにもかかわらず、わざわざ、金融機関からお金を借りて駐車場用地を購入するそうです。金利が安いといっても支払う利息額は税金の無駄遣いです。本会議場で問題点を指摘した時は、他議員さんから「ええ質問やった」という評価をいただきましたが、残念ながら町長提案どおり土地開発基金を廃止して財政調整基金に積立するところに多くの議員さんが賛成されました。どうなつてんねん！

田原本議

会議員

吉田容工



「ふるさと公園」でお花見

7日(日) 田原本後援会の春の恒例行事のお花見に、當麻の二上山「ふるさと公園」に行つてきました。

今年の開花は例年より早いので、前日の強風と雨ですっかり散つてしまつているだろうと思ひながら、数台の車に分乗して行きました。ところが私たちが行くのを待つていてくれてたかのような、八重桜、しだれ桜たち。又、大輪の赤椿、真紅のぼけ、もくれんの絨毯。そして手の込んだ盆栽を蓄えた一日でした。

田原本議

議員

森 良子



かやぶきの里 北村

先日、京都府のかやぶきの里 北村を訪問してきました。

北村は50戸の集落ですが、そのうち住宅32棟(うち4棟は鉄板で覆い)、民俗資料館や店舗など6棟の合計38棟がかやぶき屋根の建築で、集落のかやぶき建築数は岐阜県白川村萩町、福島県下郷町大内に次いで全国第3位、国の重要伝統建築物保存地区の選定を受けています。

北村のかやぶきの家屋は寛政8年(1796)建築のものが最古。地区では「かやぶきの里保存会」を組織し、公民館、農事組合、かやぶき屋根

また下ごしらえをして

いった豚汁も、数人で幾度も味見をしながら炊き上げると、好評で皆さん良くおかわりをして下さいました。

ビンゴゲームでは、好きな景品を選ぶ楽しさがあり、輪投げでは「腕でなく、足腰を使って投げろコツ」を世話人さんに伝授して頂いたり、本当に楽しく過ごしました。風は強い日でしたが自然の中で、会員同士の親睦が深まり、7月の参議院選挙へのエネルギーを蓄えた一日でした。

保存会などと連携し、歴史的景観の保存と地区住民の生活の維持を両立させ、後継者が育つ方向をめざした、様々な検討を重ねてきたといわれています。その結果、村人が出資し「有限会社かやぶきの里」を設立し、「お食事処きたむら」「北村きび工房」「民宿またべ」「お土産処かやの里」「かやぶき交流館」を一体的に運営しています。また、かやぶき職人について住民の中から後継者を育て、計画的にかやぶきの吹き替えをしているそうです。

三宅町 池田年夫

